

# 「これからのコロナ対策について」

## 竹田理事長×市長 一対一対談



今まで誰も経験したことがない猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の拡大が少し落ち着きを見せる中、これから冬にかけてインフルエンザの流行も懸念されます。そこでこれからのコロナ対策において、市民の皆さん、医療機関、行政がどのように対応していく必要があるのかについて、桑名市総合医療センター竹田理事長と市長の対談が行われました。

**市長**…まず、新型コロナウイルス感染症における総合医療センターの医師、医療スタッフ、関係者に心より感謝申し上げます。また、市内の医療機関にも多大なるご尽力をいただき感謝申し上げます。

### ■ 新型コロナへの対応

**市長**…今まで経験したことのない状況で相当苦労されたんじゃないですか。

**竹田**…桑名市の場合、医師会、保健所、市、総合医療センターの連携が取れており、検査の協力体制や患者情報の共有が十分にできていました。

医療センターのスタッフも未経験、想定外の事象が多く、それは保健所や医師会も同じだったと思います。その中で、桑名保健所では、医師会と総合医療センターの負担をうまく分散させて、負担の軽減に努めていただきました。

また、桑名医師会も早々にPCRセンターを設置していただき、開業医の皆さんにも協力していただきました。

### ■ 中核医療機関の役割

**市長**…救急や周産期など、地域の中核医療機関としての役割もありますし、コロナとの

共存は今後も大きな課題となります。

**竹田**…安定的な医療を提供するため、何をおいても院内での感染は避けなければなりません。

今年の2月から3月ごろは、不要不急な手術を先送りしていましたが、その後政府の方針もあり、医療機関でもコロナ禍での適切な運営を求められました。検査にも多くの医師が連携して関わるようにし、一部の診療科に極端な負担がかからないようにして、病院の機能を維持しています。

### ■ 行政としての役割

**市長**…行政として医療従事者の人たちの支援になるよう、マスクや消毒液の寄付を優先的に医療機関に渡したり、備品などを購入しやすくなるよう新型コロナウイルス対策基金を設けて対応したりして一丸となつて取り組んできました。

**竹田**…感染症対策のため、さまざまな備品が必要になります。特に、今年の4月ごろは、マスクや消毒液、ガウンなどの価格が高騰し確保に苦労しました。その時に市や事業者さまからいただいた支援については、大変心強い思いでした。

**市長**…第2波が少し落ち着いてきましたが、今後インフルエンザと重なる時期が訪れます。どのような行動をとることが望ましいでしょうか。

**竹田**…これから冬に向かうため、コロナとインフルエンザの区別がつかない症状の人がでてきます。病院としても、発熱している患者さまを他の患者さまと分ける必要があると考えています。そのため、発熱者専用のエリアを設けて、そこで診察をすることで、感染防止を図ることを計画しています。

皆さんにはこれまでどおり、うがい、手洗い、マスクの着用、心がけ、インフルエンザの予防接種を受けるなどの対策を講じていただくとよいと思います。

**市長**…総合医療センターから市へ何か要望はありますか？

**竹田**…感染防止のための啓発と医療機関への支援について国へ呼びかけていただきたいです。

**市長**…精一杯の支援を行ってまいります。行政だけでは乗り切ることができません。行政・医療機関・市民の皆さんと一丸となつて乗り切りましょう。

▷この対談は9月28日(月)に行われたものです。

この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ (☎ 24 - 1492 FAX 24 - 1119)